

# 第1回「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想検討会 議事概要

■日 時：平成26年9月26日 15:00～17:00

■場 所：白老町 しらおいイオル事務所チキサニ

■出席委員（五十音順、敬称略）

浅川昭一郎、内田祐一、加藤忠、佐々木利和、戸田安彦、野本正博、吉田恵介

## ■会議の概要

### 1. 検討会の設置について

民族共生公園（仮称）の基本構想（案）のとりまとめという本検討会の設置の趣旨等について、事務局より説明がなされ、設置要綱が承認された。

### 2. 委員長、副委員長の選任について

設置要綱に基づき、委員の互選により委員長に浅川昭一郎委員が選任され、副委員長には委員長の指名により吉田恵介委員が選任された。

### 3. 議 事

#### （1）事務局からの説明

事務局より、以下について説明。

- ・「民族共生の象徴となる空間」に関するこれまでの検討経緯
- ・閣議決定により白老町ポロト湖畔周辺への設置が位置づけられた国立の民族共生公園（仮称、公共空地）の基本構想（案）のとりまとめを行う検討会であること
- ・先住民族の文化などを紹介する海外の公園的土地利用に係る事例

#### （2）検討会の論点など

民族共生公園（仮称）を含む空間について、検討経緯や白老町及びアイヌ民族博物館で行われている活動などを踏まえた、幅広い意見交換がなされた。

#### 【民族共生公園（仮称）への期待について】

##### 〈象徴空間全体への期待〉

- アイヌ民族博物館をはじめ、従前より、様々な活動がされており、これらを活かした公園として欲しい。
- 博物館と公園が有機的につながり、相乗的に機能を発揮することにより、アイヌ民族の世界観への理解が深まることを期待したい。
- アイヌの方々の心のふるさととなり、全国のアイヌの方々を気持ちよく迎え入れる場としたい。
- アイヌの世界観に理解を深めることで、民族の共生に視点が広がることを期待したい。
- 象徴空間が、各地に点在するアイヌ文化を紹介する施設をつなぐ拠点となることが期待される。

##### 〈公園空間への期待〉

- 「未来」に向けた公園にしていきたい。
- アイヌの方々が関わってきた自然や土地の特徴、意義を十分に反映させた公園整備が望まれる。

- 自然との共生や民族との共生など様々な共生を大切にしたい公園として欲しい。
- 自然環境を壊すことなく、多くの人々が来場し、また来たいと思ってもらえる公園としたい。
- ポロトコタンは自然と文化が融合した良好な景観が形成されており、この景観を活かしたナショナルセンターにふさわしい施設としたい。
- アイヌの方々が利用していた自然の形態の場を再現したい。
- アイヌの方々と和人の交流の歴史から、違う価値観、考え方の人たちがどのように共存していくべきなのかということを示す意義のある場として欲しい。

#### 【アイヌ文化への理解を深めるための公園空間について】

- アイヌ民族がカムイ(神)として扱っていた水や、湖畔の植物を通じて伝統的な自然観や文化的背景を伝える空間形成が必要。
- アイヌの自然観について、何を伝えるべきかを整理した上で、どのような空間とするのかを検討すべき。
- 公園では、自然観や空間の使い方などのアイヌ文化への理解を深められるような役割・機能が最も重要ではないか。
- 既に整備してきたイオル再生事業を環境学習等の活動の拠点とすべき。
- アイヌの方々の暮らしのあり方を理解できる展示の場が必要。
- 来訪者にアイヌ文化の入り口として、アイヌ文化に興味を持って頂き、暮らしのあり方などを理解できる場としたい。
- 中央広場ゾーンにおいて、アイヌ文化への興味・関心を引くことが必要。博物館に行かなくても、アイヌ文化に触れ、知りたいというニーズに対応できる中央広場空間とすることが必要。
- 現在ある施設については、できる限り有効に使うというサステイナブルな発想が重要ではないか。
- 様々な利用形態、利用活動等を想定して基本構想(案)を検討することが重要。

#### 【快適に過ごせる魅力ある公園空間について】

- おさえるべき景観を確認し、今ある良好な景観を損ねないようにする配慮が必要。
- 体験交流や人材育成などの活動に際して必要となるバックヤード施設などが景観を阻害しないような配慮が必要。
- 憩いやレクリエーションなどの公園本来の機能により訪れて魅力を感じてもらえることが必要。
- 自然や民族との共生、ゆったりと流れる時間との共生を体験できるとよいのではないか。
- 冬季の雪や寒さ、雨を考慮した対応が必要。冬期間のゾーン間の移動や見学、学習活動への配慮を検討する必要。

#### 【民族共生公園(仮称)の運営に向けて考慮すべき事項について】

- 象徴空間がアイヌ文化を国民に理解してもらおう空間となるためには、博物館機能と公園機能の連携が重要。
- 博物館ゾーンと体験交流ゾーンが一体感を保つことが必要で、その両ゾーンをつなぐ中央ゾーンは重要な場所となる。象徴空間全体の使い勝手を考慮すると各ゾーンの連携や動線が重要となる。
- 民族共生公園は海と山をつなぐ川と湖がある空間に設置される。このロケーションとアプローチとなる交通手段、博物館、周辺の自然の利用状況を考慮することが必要。

- 中央広場ゾーンや体験交流ゾーンは管理のために利用できる空間が限られている。
- 中央広場ゾーンは周辺から人材や文化、伝承などがにじみ出てくる空間ととらえるべき。
- 親と子どもが別々に学んだり、体験できる場やプログラムの整備、修学旅行等の団体を考慮した空間の整備が必要。
- 滞在時間の長短に応じた空間や動線のあり方が重要になる。
- 周辺の観光を考えたニーズも考える必要がある。観光の要素が重要。周辺の施設などとの連携による滞在型の観光・まちづくりが重要。まちづくりや観光とのタイアップというのが今後、重要な視点となる。
- 白老町が象徴空間整備に合わせて検討しているまちづくりとの連携が重要。
- 国立民族共生公園ではイメージが難しいので、わかりやすい公園の名称や愛称が必要ではないか。
- 入口を含む象徴空間へのアプローチ空間が弱いことから、整備にあたってはよく検討を行うべき。
- 多くの方々が来る施設として、何を想定しなければならないかを考えることが重要。
- 公園空間では、博物館ではできない生きた文化・空間体験を提供することを戦略として打ち出すべきではないか。
- 背後のポロト湖などの自然をどのように利用するかが重要である。

#### 【象徴空間の他の機能に関わる事項】

- 各地のアイヌの方々などが学ぶ場所や長期のプログラムを履修する場として、長期滞在できる宿泊・研修施設が必要。
- 体験交流や文化伝承では法規制が課題となる。かつてのような理想的なものは不可能であり、限られた空間と素材を活用した新しい体験交流事業として整理されるべき。
- 冬季の雪や寒さに対応したホールなどの施設が必要。
- 料金収入をどこで得るかということでコンセプトが変わるので、料金の収受方法を検討することも重要。（個々の事業で料金を収受する方法となるのではないか。）
- 売店や休憩施設も象徴空間の基本構想に位置づけられているが、現在でも売店があり、こちらの方もしっかり考えていただきたい。
- 博物館ゾーンは物を中心とした文化財を紹介するのに対し、体験・交流ゾーンは生きた文化を中心に文化伝承を行う場となる。
- ポロト湖に丸木舟が浮いている景観があると良い。
- アイヌ民族にとっては温泉もカムイ（神）であり、温泉の活用も検討されてもよいのではないか。
- 博物館ゾーンの山側は地盤条件やロケーションを考えると、湖からの景観を阻害せずにアトリエや資材置き場等を配置することが可能。
- 材料の加工や保存を行う施設が必要ではないか。湿気によるカビ対策という面からも必要。
- 3つに大きく分けたゾーンのそれぞれに性格を持った伝承活動が行えると良い。

以 上